

40年超原発

再稼働の動き加速

県専門委「了承」 県議会、現地視察へ

関西電力の40年超原発の再稼働を巡って、県原子力安全専門委員会が9日、安全対策を評価する報告書案を大筋で了承した。同日午後には県議会の各会派の代表者会議もあり、14、15両日に議会として現地視察を実施することや、国から安全対策の説明などを聞く全員協議会を開催することも決まった。焦点は県議会と知事の同意判断に移り、再稼働に向けた動きが加速している。

【岩間理紀、大原翔】

同委は大学教授ら有識者で構成し、県内原発の安全対策などを議論、評価している。

この日午前に開催された会合では、計12人の委員と臨時委員が全員参加。40年超の美浜原発3号機、高浜原発1、2号機の経年評価や安全性について、杉本達治知事に提出する報告書案のとりまとめの議論をした。

報告書案では、重大事故時の電源や冷却設備の確保▽安全管理体制▽地震・津波対策▽高経年化対策——などが3基の安全対策を検討。重大事故対策では非常用発電装置や電源車などによる電源の整備や冷却機能が強化されているとした。40年超に関わる高経年化対策では、長期運転による設備や機器の経年劣

の安全性に懸念を示すとともに、原発を再稼働すれば発生する使用済み核燃料の処分の問題が解決されていない

などと指摘。「原発を動かすべきではない」と発言した。しかし、他の委員は「原発は必要な安全対策をとって

いる」などとして返答した。同委は今後、文言の細部などを修正した上で、最終的な報告書を取りまとめる。

また、同日午後には、県議会でも各会派の代表者会議が非公開で開催された。会議では、美浜、高浜両原発で議院が視察を実施することや、経済産業省や内閣府などから安全対

策などについて説明を受ける全員協議会を開くことが決められた。

会議後、取材に答えた畑幸幸議長は「(再稼働の可否を判断する)時期については分からないが、知事から議論再開の要請があった以上、あまり時間を長くかけることはできない」と話した。

化の状況について、関電が特別点検などで「健全性を確認している」と評価した。

高浜2号機については一部は火災対策工事が残されている状態だが、現場視察を踏まえ「同一号機と同様の機能が確保されることを確認した」とした。

一方、会合では、田島俊彦委員(県立大名藩教授)が40年超原発